

読売新聞 きょう（1月17日）のイチ押し

1面・3面・社会面など 初の共通テスト始まる

昨年まで31年続いた大学入試センター試験に代わる大学入学共通テストが始まりました。初日は地理歴史・公民、国語、外国語の試験が実施され、外国語では約47万人が受験しました。2日目の17日には理科と数学が行われます。

- ★ センター試験と同じマークシート方式ですが、思考力や判断力をより重視する出題内容となっています。受験生らからも「問題量が多かった」「英語の読解に時間がかかった」といった感想が聞かれました。
- ★ 新型コロナウイルスの感染対策のため、受験生はマスク着用で試験に臨んだほか、試験会場では休憩時間に換気が行われました。
- ★ トラブルも相次ぎました。雪による悪天候で、稚内北星学園大（北海道）の会場では初日の全教科が中止になりました。

1面・社会面など 阪神大震災きょう26年

6434人が犠牲になった阪神大震災から17日で26年となります。兵庫県内の各地で毎年営まれる追悼行事は、今年は新型コロナ感染拡大の影響で中止や縮小が相次いでいます。

- ★ 午前5時46分の発生時刻に合わせて営まれる神戸市中央区の東遊園地での「1・17のつどい」は今回、参加者を分散させるために、半日前倒しして16日夕から灯籠への点灯が始まり、夜通し続けられます。

他紙と比べて

国内外の一流の有識者が国際情勢などを考察する大型コラム「地球を読む」（日曜朝刊1面・2面掲載）の執筆陣に、ノーベル生理学・医学賞受賞者の山中伸弥・京都大iPS細胞研究所長が今年から加わりました。最初の寄稿のテーマは「新型コロナ」。欧米に比べて感染対策が緩く、人口当たりの検査数も少ないにもかかわらず、日本人はこれまでのところ死者数が比較的少ないのはなぜか？その未知の要因を「ファクターX」と呼んで様々な側面から分析しています。